■都道府県別損害賠償責任保険事故状況（1件当たり 20 万円以上の事故）

1件あたり 20 万円以上の事故は、平成 30 年度以降、毎年増加傾向にあり、令和6年度は若干の減少となりましたが、令和7年度は件数及び金額合計は過去最高となってしまいました。

都道府県別の事故件数でみると 25 連合で増加、金額でみても 30 連合で増加しており、事故の型が「飛散させた物での損壊」による事故（主に草刈り機使用時の飛び石事故）の件数では 23 連合で増加しています。

NO.	都道府県	①損害賠償責任保険事故（1件あたり20万円以上の事故）		②①における飛散させた損壊事故	
		件数	金額	件数	金額
1	北海道	25 （ 21 ）	14,584,607 （ 16,860,609 ）	19 （ 10 ）	8,093,156 （ 6,144,061 ）
2	青森県	14 （ 7 ）	4,702,029 （ 2,144,403 ）	11 （ 4 ）	3,707,593 （ 1,200,815 ）
3	岩手県	14 （ 2 ）	6,825,568 （ 545,227 ）	6 （ 1 ）	2,846,268 （ 227,227 ）
4	宮城県	20 （ 16 ）	7,431,388 （ 8,186,931 ）	14 （ 13 ）	5,234,913 （ 7,283,775 ）
5	秋田県	4 （ 7 ）	3,435,866 （ 16,153,218 ）	4 （ 5 ）	3,435,866 （ 12,231,630 ）
6	山形県	4 （ 5 ）	1,389,048 （ 2,105,868 ）	3 （ 5 ）	994,148 （ 2,105,868 ）
7	福島県	18 （ 17 ）	7,579,956 （ 7,054,557 ）	14 （ 12 ）	6,348,396 （ 4,526,025 ）
8	茨城県	28 （ 20 ）	9,739,208 （ 6,868,216 ）	20 （ 18 ）	6,792,027 （ 6,264,216 ）
9	栃木県	21 （ 14 ）	6,502,782 （ 5,321,441 ）	18 （ 9 ）	5,658,044 （ 3,203,204 ）
10	群馬県	23 （ 15 ）	14,186,973 （ 6,230,233 ）	12 （ 10 ）	5,370,011 （ 4,367,856 ）
11	埼玉県	35 （ 41 ）	17,970,349 （ 15,702,031 ）	22 （ 32 ）	11,084,110 （ 13,078,875 ）
12	千葉県	26 （ 31 ）	14,897,502 （ 19,167,074 ）	19 （ 20 ）	11,651,988 （ 11,613,891 ）
13	東京都	17 （ 14 ）	13,851,559 （ 8,442,490 ）	5 （ 1 ）	4,972,756 （ 479,716 ）
14	神奈川県	17 （ 21 ）	13,396,385 （ 8,716,585 ）	10 （ 13 ）	10,674,181 （ 5,894,208 ）
15	新潟県	9 （ 6 ）	3,065,144 （ 1,944,661 ）	7 （ 5 ）	2,629,644 （ 1,626,460 ）
16	富山県	10 （ 5 ）	4,072,710 （ 2,856,857 ）	7 （ 4 ）	2,159,392 （ 1,304,857 ）
17	石川県	11 （ 7 ）	5,243,962 （ 2,085,887 ）	9 （ 4 ）	3,940,371 （ 1,048,294 ）
18	福井県	6 （ 10 ）	2,894,359 （ 3,563,839 ）	3 （ 8 ）	1,319,264 （ 2,971,281 ）
19	山梨県	9 （ 6 ）	5,979,639 （ 2,347,347 ）	8 （ 3 ）	5,650,604 （ 1,444,787 ）
20	長野県	11 （ 21 ）	4,772,326 （ 9,257,398 ）	8 （ 17 ）	3,301,526 （ 6,499,826 ）
21	岐阜県	25 （ 26 ）	11,504,952 （ 10,205,623 ）	18 （ 22 ）	8,549,823 （ 8,782,443 ）
22	静岡県	27 （ 34 ）	12,978,343 （ 14,104,651 ）	20 （ 26 ）	10,763,249 （ 10,664,243 ）
23	愛知県	45 （ 32 ）	19,610,798 （ 14,297,527 ）	29 （ 27 ）	13,850,840 （ 12,133,389 ）
24	三重県	23 （ 22 ）	13,111,863 （ 11,141,128 ）	21 （ 17 ）	11,257,863 （ 7,683,058 ）
25	滋賀県	15 （ 10 ）	5,387,693 （ 3,825,295 ）	11 （ 9 ）	4,168,093 （ 3,581,095 ）
26	京都府	7 （ 16 ）	2,485,698 （ 6,491,206 ）	5 （ 9 ）	1,931,748 （ 3,797,306 ）
27	大阪府	28 （ 28 ）	15,593,187 （ 17,519,043 ）	12 （ 15 ）	5,296,853 （ 8,764,398 ）
28	兵庫県	35 （ 31 ）	16,604,738 （ 13,682,341 ）	27 （ 21 ）	11,650,227 （ 6,824,538 ）
29	奈良県	16 （ 14 ）	8,213,097 （ 5,455,907 ）	13 （ 9 ）	6,734,779 （ 3,219,105 ）
30	和歌山県	5 （ 9 ）	7,167,827 （ 4,550,822 ）	4 （ 6 ）	1,288,855 （ 2,972,331 ）
31	鳥取県	0 （ 3 ）	0 （ 1,713,110 ）	0 （ 1 ）	0 （ 628,914 ）
32	島根県	5 （ 3 ）	1,745,500 （ 1,295,594 ）	1 （ 1 ）	419,800 （ 444,704 ）
33	岡山県	9 （ 9 ）	5,277,570 （ 4,292,259 ）	6 （ 7 ）	4,082,570 （ 3,291,210 ）
34	広島県	12 （ 14 ）	7,747,198 （ 6,278,027 ）	9 （ 12 ）	5,661,597 （ 5,561,094 ）
35	山口県	5 （ 8 ）	1,875,842 （ 1,969,107 ）	4 （ 8 ）	1,638,022 （ 1,969,107 ）
36	徳島県	7 （ 4 ）	3,443,896 （ 1,974,851 ）	6 （ 2 ）	2,899,396 （ 572,901 ）
37	香川県	18 （ 13 ）	7,228,456 （ 6,601,392 ）	11 （ 12 ）	4,036,186 （ 5,411,039 ）
38	愛媛県	5 （ 9 ）	2,080,459 （ 4,606,879 ）	5 （ 8 ）	2,080,459 （ 4,252,379 ）
39	高知県	5 （ 1 ）	2,006,821 （ 260,500 ）	5 （ 1 ）	2,006,821 （ 260,500 ）
40	福岡県	36 （ 37 ）	19,963,880 （ 16,350,557 ）	25 （ 28 ）	15,636,781 （ 11,883,641 ）
41	佐賀県	8 （ 8 ）	3,759,559 （ 4,599,977 ）	7 （ 6 ）	3,496,109 （ 4,078,877 ）
42	長崎県	7 （ 8 ）	3,118,360 （ 4,513,389 ）	7 （ 7 ）	3,118,360 （ 3,836,889 ）
43	熊本県	18 （ 15 ）	7,891,460 （ 6,204,521 ）	15 （ 14 ）	6,503,057 （ 5,737,021 ）
44	大分県	10 （ 11 ）	4,353,683 （ 3,562,794 ）	9 （ 10 ）	3,812,483 （ 3,330,281 ）
45	宮崎県	7 （ 9 ）	3,005,573 （ 2,462,395 ）	5 （ 8 ）	2,121,173 （ 2,225,895 ）
46	鹿児島県	15 （ 13 ）	5,480,642 （ 7,171,574 ）	8 （ 11 ）	3,381,415 （ 6,708,700 ）
47	沖縄県	11 （ 10 ）	4,943,646 （ 4,977,417 ）	7 （ 3 ）	2,246,296 （ 1,042,289 ）
合計		726 （ 683 ）	359,102,101 （ 325,662,758 ）	509 （ 494 ）	244,497,113 （ 223,174,219 ）

保険金額別件数

保険金額	件数
20万円以上 50万円未満	522（511）
50万円以上 75万円未満	120（ 93）
75万円以上 100万円未満	37（ 35）
100万円以上 200万円未満	31（ 36）
200万円以上 300万円未満	6（ 3）
300万円以上	10（ 5）
合 計	726（683）

年度別事故発生状況

年度	件数	性別	
		男性	女性
7年度	726	713	13
6年度	683	676	7
5年度	710	693	17
4年度	645	638	7
3年度	611	600	11
2年度	514	500	14
元年度	486	477	9
30年度	437	431	6
29年度	409	460	9
28年度	411	393	18
27年度	409	394	15
26年度	395	388	7

※赤字は件数、金額が前年度より増加した都道府県です。　※（　）は６年度の件数、金額です。

※出所：令和７年度損害賠償責任保険事故に係る調査について（２０万円以上の事故の調査）

安全リレー
47 都道府県連合でつなぐ

安全リレー

今月は
茨城県連合さんです！



～ 茨城県における安全就業の取り組みについて ～

1.（公社）茨城県シルバー人材センター連合会の概要（令和7年度実績）

（1）センター数	４２団体（法人ＳＣ：３９　小規模ＳＣ：３）
（2）会員数	１４，６４２人（男性：９，６５７人　女性：４，９８５人）
（3）粗入会率	１．４％
（4）就業延人員	１，１９４千人（内派遣：３６６千人）
（5）就業率	請負：５９．６％　派遣:８２．８％
（6）受注件数	７１，０１６件（内派遣：１，９２７件）
（7）契約金額	７，５５１百万円（内派遣：２，４０２百万円）

2. 事故発生状況（シルバー保険対象事故）

（1）傷害事故発生件数

		３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	計
		115	110	100	99	120	544
仕事の内容別（主なもの）	植木・樹木剪定作業	45	36	32	32	35	180
	草刈り・除草作業	30	32	30	28	39	159
事故の型別（主なもの）	虫刺され・噛まれ	29	32	21	27	39	148
	転倒	28	20	24	21	25	118

（2）損害賠償事故発生件数

		３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	計
		122	119	135	98	121	595
仕事の内容別（主なもの）	草刈り・除草作業	97	112	105	73	99	486
	植木・樹木剪定作業	16	3	13	8	10	50
事故の型別（主なもの）	飛び石	74	92	88	58	85	397
	器具接触	26	13	25	9	18	91

3.安全就業対策推進事業の具体的内容

（1）安全就業対策推進委員会の開催

①構　成：連合会理事　　2名
　　連合会　　2名　事務局長、パトロール指導員
　　各ブロック代表　4名　県央・県北、鹿行、県南、県西
　　委員長要請委員　1名
　　合　計　　9名

②開催回数：年3回

③重点目標：「重篤事故ゼロ及び傷害・損害賠償・交通事故の減少」（令和8年度）



（2）安全就業パトロールの実施

各センターにおける重篤事故、傷害事故及び損害賠償事故の発生状況等を踏まえ、作業中の現場を訪問し、作業状況の点検・確認を行うとともに、センターの役職員、安全委員、就業会員等と点検結果の確認や対応策、安全就業への取組等について意見交換を行い、事故の未然防止に係る意識の高揚、課題解決に向けた取組を行っています。





（3）安全就業推進大会の開催

毎年、全国の安全・適正就業強化月間である7月上旬に、会員の安全就業への取り組みの促進と就業中及び就業途上における事故発生の未然防止に資するため大会を開催しています。

また、今年の講演では傷害・損害賠償事故等に対する再発防止対策や今問題となっている熱中症対策から高年齢者の労働災害防止のための指針と幅広い内容で行いました。

安全リレー

① 開催日 令和8年7月3日(金)
② 参加者 179名（シルバー人材センター会員、役・職員）
③ 優良センターの表彰 優秀賞・優良賞
④ 安全スローガンの表彰 優秀賞・優良賞・佳作賞
⑤ 優良センターによる「安全就業の取組について」事例発表
⑥ 講 演 「過去の事故から学ぶ～一日を安全に終えるために～」





(4) 安全就業対策講習会の開催

平成30年度からシルバー人材センター会員、役・職員を対象に、特に傷害・損害賠償事故発生の多い就業（作業）等に係る講習会を開催しています。

また、令和7年度は損害賠償事故の約7割を占める飛び石による事故について、県内において事故件数の少ないセンターに好事例として「刈払機による飛石事故予防対策について」紹介いただいた。





4. 今後の課題

今後、ますます会員の高年齢化が進み、安全就業が続けられる環境整備を図る必要があります。

各センターでは、受注段階での作業内容の精査が重要になり、安全の確保が絶対条件となります。

連合会としては、各センターと連携してより一層の安全対策の周知徹底、事故防止につながる情報提供を行い、会員の皆様の安全意識向上につながる取り組みを強化してまいります。

◆・◆・◆・ 茨城県シルバー人材センター連合会さんからの報告でした ・◆・◆・◆

ご報告、誠にありがとうございました。

安全就業等に係る
全シ協　販売書籍のご案内

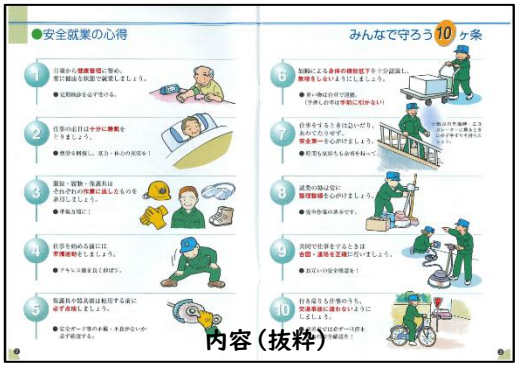
他にも様々な書籍を販売しております。
全シ協 HP、【書籍のご案内】から一覧をご覧いただけます。
ぜひ、ご活用ください。



『安全就業のためのチェックポイント』

会員の皆様が安全に就業するための要点を、全カラー版でまとめたイラスト小冊子です。

※注：10 部以上からお申し込みください。
A4 判、32 ページ
定価 242 円(税込)、送料実費



内容（抜粋）



『会員必携　安全就業ハンドブック』

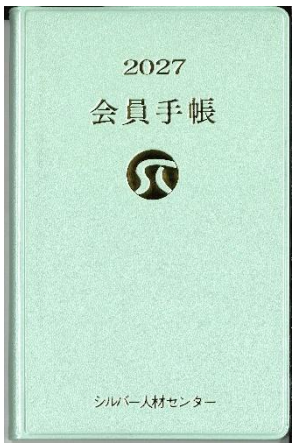
安全就業の心得をはじめ、仕事別の安全対策などを分かりやすく解説したポケット版の会員必携ハンドブックです。
会員の皆さまお一人おひとりに、ぜひお持ちいただきたい手帳です。

※注：10 部以上からお申し込みください。

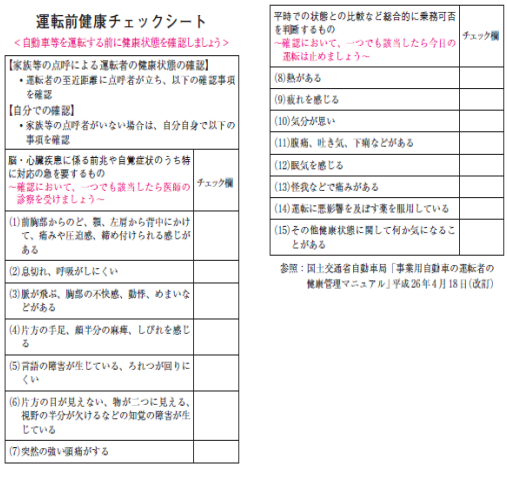
変形 B7 判(縦 12.5cm×横 7.6cm)／44 ページ
定価 187 円(税込)、送料実費



内容（抜粋）







運転前健康チェックシート

＜自動車等を運転する前に健康状態を確認しましょう＞

【家族等の声呼による運転者の健康状態の確認】 ・運転者の至近距離に声呼者が立ち、以下の確認事項を確認 【自分での確認】 ・家族等の声呼者がいない場合は、自分自身で以下の事項を確認	
脳・心臓疾患に係る前兆や自覚症状のうち特に対応の急を要するもの ～確認において、一つでも該当したら医師の診察を受けましょう～	チェック欄
(1)前胸部からのど、顎、左肩から背中にかけて、痛みや圧迫感、締め付けられる感じがある	
(2)息切れ、呼吸がしにくい	
(3)脈が飛ぶ、胸部の不快感、動悸、めまいなどがある	
(4)片方の手足、顔半分の麻痺、しびれを感じる	
(5)言語の障害が生じている、ろれつが回りにくい	
(6)片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠けるなどの知覚の障害が生じている	
(7)突然の強い頭痛がする	

平時での状態との比較など総合的に乗務可否を判断するもの ～確認において、一つでも該当したら今日の運転は止めましょう～	チェック欄
(8)熱がある	
(9)疲れを感じる	
(10)気分が悪い	
(11)腹痛、吐き気、下痢などがある	
(12)眠気を感じる	
(13)怪我などで痛みがある	
(14)運転に悪影響を及ぼす薬を服用している	
(15)その他健康状態に関して何か気になることがある	

参照：国土交通省自動車局「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」平成26年4月18日(改訂)

内容（抜粋）

購入ご希望の連合本部・センターは、
SC 事務局用ページ「書籍の購入申込み」メニューからお申込みください。

草刈動画
No. 1

あいおいニッセイ同和損保様制作
草刈り作業に関する安全啓発動画のご紹介
「草刈り作業時の重大事故の危険性と防止対策について

動画では、草刈り作業に潜む 7 つの危険ポイントについて、事例を交えながら分かりやすく紹介しています。視聴者が危険を予測しながら理解を深められる内容となっており、あわせて具体的な対策方法や作業時の心構えについても解説しています。

安全教育は繰り返しが大切です。日頃の安全対策を見直すきっかけとして、ぜひご活用ください。



▶▶▶

動画はこちらの QR コードからご覧いただけます

草刈動画
No. 2

全シ協作成　安全な草刈り作業のための動画のご案内

草刈り作業をされる会員の皆さまへ

ぜひ、定期的に動画「安全な草刈り作業のために」をご視聴いただき、安全な作業方法の再確認にご活用ください。飛び石防護ネットは必ず設置し、安全な作業を心がけましょう。

動画 DVD の貸出も行っております。
希望のセンターは、全シ協　研修・支援課までお問合せください



こちらの QR コードから動画をご覧いただけます。⇒

全シ協 HP に移動します

編集後記

私はかなり涙もろく、テレビを観ているだけでよく泣いてしまいます。ドラマもバラエティーもスポーツも、人間味溢れる場面が私の感情を揺さぶります。誰かが泣いている場面を見ただけでももらい泣きをしてしまいます。「ここは泣くところではない」と自分に言い聞かせても、涙腺はコントロールできません。若い頃はなんとか頑張って涙をこらえることができました。うっかり涙が出てしまっても、「…目がかゆい、、」などと苦しい言い訳をしていました。周りにはバレまくっていたはずです。当時は格好をつけたり弱みを見せないようにしたりしていたので、人前で泣くのは恥ずかしく思っていました。年齢を重ね、人の苦労や努力、家族への思い、誰かを支える優しさなどが、以前よりも身近に感じられるようになりました。自分もいろいろな経験をしてきたからこそ、誰かの気持ちに重ね合わせることが増えたのでしょう。若い頃よりも更に涙もろくなったのは、人の気持ちを感じる力が強くなったのかもしれません。最近では、テレビを見ていて涙を拭いている自分に気づくと少し笑ってしまいます。家族は日常茶飯事と捉えているのかスルーしています。私も以前なら泣くことを隠そうとしていましたが、今はもうあきらめました。泣きたいときは泣く。笑いたいときは笑おうと思っています。年齢を重ねるということは、無理に格好をつけなくてもよくなることなのかもしれません。涙もろい自分も悪くないと思えるようになりました。人の本質はそう簡単には変えられませんし、本音で自分をさらけ出すことができれば人間関係もうまくいくのではないでしょうか。（高木）